

事 務 連 絡

平成28年5月24日

熊本県 災害救助担当主管部（局）長 殿

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（被災者行政担当）

平成28年熊本地震に係る応急仮設住宅について

今般の熊本地震において、避難所で生活されている被災した方々が速やかに応急仮設住宅に移っていただく観点から以下の点につき御了知願いたい。

また、管内市町村に対して、下記内容に関する情報提供を併せてお願いする。

記

1. 入居対象者

応急仮設住宅は、以下の方なども入居することが可能であるので、この旨了知されたい。

- ①住宅の被害を受け、現在、避難所にいる方はもとより、ホテル・旅館、公営住宅等を避難所として利用されている方や、親族宅等に身を寄せられている方
- ②二次災害等により住宅が被害を受ける恐れがある、ライフライン（水道、電気、ガス、道路等）が途絶している、地すべり等により避難指示等を受けているなど、長期にわたり自らの住居に居住できない方
- ③「半壊」であっても、住み続けることが危険な程度の傷みや、生活環境保全上の支障となっている損壊家屋等取り壊さざるを得ない家屋の解体・撤去に伴い、自らの住居に居住できない方

2. 借地料

災害救助法による応急仮設住宅は、公有地等を予定しているところであるが、土地の利便性や、速やかな用地確保の観点から民有地を活用したことに伴う土地の借料についても、個別の状況に応じて、通常の借料の範囲内で災害救助法の国庫負担の対象となるので、必要に応じ協議されたい。

3. 造成費及び土地の原状回復費

応急仮設住宅の建設用地における土地の造成費（権利調査、測量、造成設計、盛り土、切り土など）及び応急仮設住宅を解体撤去する際の用地の原状回復費については、災害救助法の国庫負担の対象となるので、必要に応じご相談願いたい。

特に、民有地の借用を予定している場合、このことを土地の所有者に説明することにより、円滑な用地確保を図っていただきたい。

4. 防火対策等

応急仮設住宅の防火対策等を強化するために、次の設備、備品を整備した場合には、これに要する経費については、災害救助法の国庫負担の対象となるため、具体的な整備に当たっては、それぞれの必要性を踏まえつつ、優先順位をつけて実施されたい。

- ① 応急仮設住宅の野外に設置されている消火器に加えて、各住戸内への消火器の設置
- ② 集会所、談話室へのＡＥＤ（自動体外式除細動器）の設置（なお、設置に当たっては、必要な場合に活用できるよう、管理者等を定めるなど適切な管理を行うこと。）
- ③ 各住戸、集会所及び談話室内への非常ベルの設置